

札幌市委託事業

誰もが住みやすい あんしんのまち コーディネート事業

事業報告書

（平成31年・令和元年度）



SAPPORO

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

はじめに

災害に備えた地域での支え合い

～誰もが住みやすいあんしんのまちを目指して

平成 23 年に発生した東日本大震災や平成 30 年に発生した北海道胆振東部地震、相次ぐ台風の大雨など、近年日本各地で未曾有の災害が発生しています。

そのため、災害を他人事として捉えるのではなく、我が事として継続して考えなければならないと強く感じているところです。災害が発生した場合の避難や近隣住民・支援者による避難支援、その後の避難生活においては地域の助け合いである「共助」が重要な役割を果たします。障がいのある方にとっても、日頃の備えと同時に、地域との関わりや避難について考えておくことが大切です。

平成 25 年の災害対策基本法の改正により、札幌市は町内会・自治会等の申請に応じて『避難行動要支援者名簿情報』を提供できるようになりました。名簿情報を活用し、避難の際に支援が必要とされる方の安全が迅速に確保されるよう、地域での取組が行われてきております。

札幌市では障がいのある方が安心して避難できるよう、平成 28 年度より町内会・自治会等の取組を側面支援する「誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業」を開始しました。本事業では、町内会・自治会等に対して、障がいのある方の避難支援にあたっての留意点を解説する、避難支援計画の作成方法をお手伝いするなどの活動を行っています。

災害に備えた地域での支え合いから、誰もが住みやすいあんしんのまちを目指して、一人でも多くの方にこの事業を活用していただければ幸いです。

令和 2 年 4 月 札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課
さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業とは

障がいのある方の支援の専門家がコーディネーターとして、障がいのある方の避難支援計画の作成等を支援します！

障がいのある方の避難支援で、お困りのことはありませんか？

- ◆ 避難行動要支援者名簿情報の提供を受けたが、障がいの種類によって、どのような接し方をすればよいのか分からない。
- ◆ ○○の障がいのある方の個別避難計画を考えたいが、どのような配慮を行ったらよいのか分からない。



本事業では、災害が発生したときに障がいのある方の避難支援を行う町内会・自治会、地区社会福祉協議会（福祉のまち推進センター）、障がいのある方々の団体等に対して障がいのある方の支援の専門家がコーディネーターとして、障がいのある方の避難支援を考えるにあたり、助言を行う等、地域での災害に関する取組への支援をします。

コーディネーターが可能な支援



- ◆ 支援に当たっての留意点等の助言
- ◆ 避難行動要支援者と支援者のマッチングへの助言
- ◆ 各避難行動要支援者の個別避難支援計画への助言
- ◆ 避難訓練への助言 等

※ 要支援者にお会いする場合はご本人の了解をいただきながら進めさせていただきます



平成31年度・令和元年度の主な活動内容

- ◆ A 地区福祉のまち推進センターの研修会に参加し、障がいのある方の避難支援の留意点について講演を行い、その後のグループワークで町内会の現状について話しました。
- ◆ B 町内会に対して、個別避難計画、防災カードの作成にあたり書式提案等の支援を行いました。
- ◆ C 地区福祉のまち推進センターの研修会について、企画立案から支援を開始し、身体障がい当事者の方のご講演、ヘルパー事業所による実技講習を行いました。
- ◆ D 町内会が主催した要配慮者の方を対象とした避難訓練に参加しました。要配慮者の方の避難に同行し、ご意見をお聞きしました。
- ◆ E 町内会が主催する要配慮者の方を対象とした避難訓練の企画会議に参加し、具体的な実施内容について、ご提案しました。
- ◆ F 地区民生委員児童委員協議会が主催する研修会について企画検討から支援を行いました。障がいのある方の家族会の皆さまと共同で、障がいや災害について講演を行いました。
- ◆ G 障がい福祉サービス事業所が、町内会と共同で行った避難訓練について、企画検討から支援を行いました。重度の障がい者のある方の避難支援について事業所スタッフ、町内会の方が協力して取り組みました。
- ◆ H 障がい福祉サービス事業所に対して、町内会が取り組んでいる支援の実際について、情報提供しました。
- ◆ 各町内会長・自治会長等を対象に「災害に備えた地域での支え合い研修会（※）」を実施しました。（参加人数・約320名）

※ 「災害に備えた地域での支え合い研修」とは、災害時における障がいのある方の避難支援に関する理解を深めていただくため、参考となる町内会・自治会等の取組を多くの方に知ってもらうことを目的に、本事業で毎年1回開催しています。開催については、毎年ご案内しています。



誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業の利用方法

コーディネーターによる支援を希望される方、本事業の詳細を知りたい方は、以下にご連絡ください。なお、支援費用はかかりません。

◆ さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

住所：札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園 302号

電話：011-213-0171 ファクシミリ：011-213-0172

メール：sapporo@one-all.net

ホームページ：<http://one-all.net/>（「札幌 ワン・オール」で検索）

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールとは

本事業は、札幌市から札幌市基幹相談支援センターである「さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール（通称ワン・オール）」に委託され、支援を実際に行うコーディネーターが配置されています。

ワン・オールの主な仕事は、障がいある方やそのご家族などへ支援を行う相談支援機関等の後方支援と地域生活支援の体制づくりです。たくさんの方々と協働しながら、誰もが安心して生活できる地域づくりを推進しています。

日頃から障がいのある方に関わり、相談支援専門員として活動しているコーディネーターが、町内会・自治会や障がい福祉サービス事業所を支援いたします。

コーディネーターは、相談支援専門員のほか、社会福祉士等の国家資格を持っている、障がいがある方の支援の専門家です。



取組事例の紹介と当事業の関わり①

菊水 1 条 1 丁目町内会

地域の概要

都心部に近く、豊平川の豊平橋と一条橋の右岸側に面した地域にある町内会です。

昭和 51 年に地下鉄が開通し賃貸マンションが増える一方で、古くから住んでいる方が転出して戸建住宅が年々減少しています。

近隣には商業施設や医療機関もあり、住環境にも恵まれた地区ですが、基幹避難所まで約2キロメートルと離れています。

取組体制

●スローガン

「誰もが安心・安全に暮らし続けられる地域づくり」

●重点活動

- ①地域での支え合い活動（避難行動要支援者）
- ②災害に備え地域での共助活動（避難所体制確立、防災備品備蓄、支援員確保）
- ③地域環境衛生の取組み
- ④町内活動の見える化（掲示板、SNS の活用）
- ⑤町内会役員の成り手育成（学生、若手社会人の取組み）

コーディネート事業への依頼内容

- 1 スキルアップの為、災害支援に関する研修会を企画したい。
- 2 要配慮者、特に障がいについての理解を深めたい。
- 3 具体的な介助方法について知りたい。

コーディネート事業で関わった内容

- 1 研修会企画の提案と実施①
 - ・障がい当事者の方から講演（聴覚障がい、視覚障がい）
 - ・避難行動要支援者名簿について
- 2 研修会企画の提案と実施②
 - ・障がい当事者の方から講演（身体障がい）
 - ・実技演習～地域でできる基礎的な介助



研修会の様子



3 「要配慮者を対象とした避難訓練」への参加

- ・地震発生を想定し、要配慮者のご自宅から、避難所まで支援員が誘導しました。その後、交流を深める為に、参加者で親睦会を行いました。

※要配慮者 7 名（身体障がい、視覚障がい、要介護の方）

支援員 12 名（町内会役員・民生委員・サポーター）

※基幹避難所は遠い為、近隣のホテルと「町内避難所」の協定を結んでいます。



要配慮者の方への事前のご説明。
避難所までの経路を確認します。



確認した方法で安全に支援。
3 名体制で実施しました。



高校生の青年部長も大活躍です！！



終了後は皆さんで懇親会を行いました。
日常のお付き合いが大事です。

【町内会長から】

町内会支援員のスキルアップの課題や、避難行動要支援者名簿以外の支援を必要とする方への取組みも今後、取り組まなくてはならないと考えています。

単一町内会としての取組みだけでなく連合町内会と連携した支援体制の確立も協議中です。

第1歩を歩みだしたばかりですが、今後も地域住民の理解と協力を得ながら取り組んでいきます。



取組事例の紹介と当事業の関わり②

特定非営利活動法人 自立支援センター歩歩路(ぽぽろ)

共同住居「てっちゃん」

生活介護事業所「愛歩路（あぽろ）」

自立支援センター歩歩路について

障がいの方が利用する通所や住居の事業、子どもを対象とした通所の事業等、主に障がい福祉サービスを札幌市内で幅広く行っており、まもなく創立 15 年を迎えます。

「てっちゃん」「愛歩路」は多くの**重症心身障がい者（※）**の方が利用されています。

北海道胆振東部地震の時は、幸いにも利用者さん、スタッフの皆さんに怪我はありませんでしたが、住宅建物に大きな被害を受け、引っ越しをしなければならませんでした。



胆振東部地震時の被災状況

※重症心身障がい者（児）

重度の肢体不自由と重度の知的障がいとが重複した状態を重症心身障がいといいます。日本ではおよそ 43,000 人いると推定されています。

地域の概要（「てっちゃん」「愛歩路」のある「東和町内会」）

人口約 600 人。世帯数約 260 世帯。

美香保公園の近くに位置しており、小さなお子さんから高齢者まで幅広い年齢層が住んでいます。一戸建てが多いですが、アパート・マンションも混在しています。



コーディネート事業への依頼内容

- 1 災害支援に取り組んでいる地域での活動を教えてほしい。
- 2 町内会の皆さんと共同して、災害時の支援を考えていきたい。

コーディネート事業で関わった内容

- 1 研修会企画の提案と実施
 - ・災害時の共助の取組みについて講演
 - ・避難行動要支援者名簿について講演



研修会の様子

- 2 避難訓練企画会議の参加

これまで事業所で行ってきた訓練を振り返り、今後の町内会との連携について検討しました。

今回は町内会の方をご招待して、支援の実際を見学してもらう事から始めていく事になりました。

- 3 「てっちゃん」「愛歩路」利用者を対象とした避難訓練への参加

町内会から会長はじめ3名の方が訓練に参加してくださり、避難の実際を見て頂きました。屋内構造の課題や避難口の再確認など、今後の改善点等を一緒に検討して頂く事ができました。また、災害時には、避難口から躊躇なく入って頂き、手を貸して下さいようにご依頼をし、快くご了承頂きました。

【町内会長から】

- ・歩歩路さんは、班長の仕事や町内会の行事にも積極的に取り組んでくれています。町内会としても、ご協力していける事を具体的に検討していきたいと思います。



【歩歩路さんから】

- ・大きな災害で助け合えるのはやはり近くにいる「人」

知らない人より知ってる人だと更にその力は強いものなると思う。人の命を守るには自分や職員だけでは足りない。公的な機関では間に合わないかもしれない。やはり地域の近くに居る人の力を持ち合わせる事が重要だと感じます。

法人として町内会に役にたてるよう努め、より連携した取り組みを進めていきたいです。



参考資料

用語解説

要配慮者

災害が発生した場合、安全な場所への避難行動や避難場所での生活において大きな困難が生じ、まわりの人の手助けを必要とする人たちを、「要配慮者」といいます。これらの人たちには、災害時に特別な配慮が必要となります。例えば、移動が困難な人、車いす、補聴器などの補装具を必要とする人、情報を入手したり、発信したりすることが困難な人、急激な状況の変化に対応が困難な人、薬や医療装置が常に必要な人、精神的に不安定になりやすい人などです。

避難行動要支援者

要配慮者のうち、災害の発生又はそのおそれがある場合に、自ら避難することが困難で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を要する方たちを「避難行動要支援者」といいます。例えば、要介護の認定を受けている方、居宅介護、生活介護、共同生活援助、移動支援等の障がい福祉サービス等の支給決定を受けている方、身体障害者手帳１～２級の方、視覚障がい、聴覚障がいのある方、療育手帳Ａの方、精神障害者保健福祉手帳１級の方等です。

避難支援等関係者

避難支援等の実施に携わる関係者を「避難支援等関係者」といいます。災害の発生に備えて、避難行動要支援者本人の同意を得て、避難行動要支援者名簿情報の提供を受けられることができる団体です。例えば、単位町内会・自治会、連合町内会、福祉推進委員会、地区福祉のまち推進センター運営委員会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、自主防災組織などです。

※ 札幌市要配慮者避難支援ガイドラインをもとに作成。ガイドラインは札幌市ホームページに掲載。

<http://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/fukushijosetsu/youhairiyosya.html>



参考資料

参考情報

※各項目の「タイトル」を web で検索すると、最新の詳しい情報を調べることができます。



●要配慮者避難支援に取り組む皆様へ（札幌市保健福祉局総務部総務課）

- ・災害時支え合いハンドブック
- ・様式例一覧（チラシなどのひな型を掲載）
- ・災害に備えた地域での支えあい（避難行動要支援者名簿について）
- ・出前講座について など



●災害に備える（札幌市危機管理対策室危機管理対策部危機管理対策課）

- ・いざという時のために
- ・地震や風水害に備える
- ・防災の取組み・計画ほか
～避難所運営マニュアル、要配慮者二次避難所など
- ・災害危険箇所図（ハザードマップ）
- ・どこへ避難するの？ など



●新型コロナウイルス感染症について（札幌市保健福祉局保健所感染症総合対策課）

- ・相談窓口、市内の状況
- ・啓発資材（感染症対策、咳エチケット、手洗い） など



●新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック

認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）

- ・どこにいても一人ひとりが守る事
- ・学校や公民館などの避難所生活で、気をつける事
～避難施設の例
～避難先として考えられる場所と避難施設の役割分担 など



※適宜更新しています。最新版は JVOAD ウェブサイト『ガイドライン』 <http://jvoad.jp/guideline>



モデル避難計画

参考様式です。避難計画はご本人と一緒に計画を立てることが重要です。
ふりがなは、漢字を読むことが苦手な方も読みやすいように付けています。

基本情報シート 1

いざという時に

個別避難計画

ちょうないかい
町内会

かいちょう しめい
会長の氏名
でんわ
(電話

)

< ねん 年 がつ 月 にち 日 さくせい 作成 > さくせいしゃめい 作成者名 :

しめい
氏名 : さん

でんわ
電話 : - -

じゅうしょ
住所 : ちょうめ 丁目 ばん 番 ごう 号 (マンション名等 ごうしつ 号室)

●避難場所 ひなんばしょ きほんてき 基本的に以下の場所に避難しましょう。いくつかある場合は空白にご記入ください。

がっこうめい
(学校名) じゅうしょ
住所 : でんわ
電話 : - -

かぞく れんらくさきなど
ご家族・連絡先等

ひとりぐ
☐ 一人暮らし

どうきょ
☐ 同居

べつきょ
☐ 別居

ひなん し
避難のお知らせ

ひつよう
☐ 必要ない

ひつよう でんわ ほうもん
☐ 必要 (電話で 訪問して)

ひなんばしょ いどう
避難場所への移動

じぶん いどう
☐ 自分で移動できる

どうぐ ひつよう くるま つえ その他 () >
☐ 道具が必要 < 車 いす >

かいじょ ひつよう からだ ささ みまも た
☐ 介助が必要 < 体 を支える 見守り その他 () >

しえんたんとうしゃ
支援担当者

()

こしょう
呼称については

ちょうないかい
町内会ごとに

てきぎへんこう
適宜変更してください

しめい
氏名

でんわ
電話 - -

しめい
氏名

でんわ
電話 - -

しめい
氏名

でんわ
電話 - -

しめい
氏名

でんわ
電話 - -



基本情報シート2

配慮してほしいこと、 知ってほしいこと	いつも使用	つえ くるま いす メガネ 入れ歯 ()
	アレルギー	ない ある ()
	服用薬	「おくすり説明書」添付 (あり・なし)
	かかりつけの 病院	でんわ (電話 - -)
	おも びょうき 主な病気	
	その他	☐ 見えない (見えにくい) ☐ 音が聞こえない (聞こえにくい) ☐ 文字や言葉の理解がむずかしい ☐ その他 ()
特記事項		

緊急時連絡先一覧		
しめい かんけい だんたいめい 氏名 (関係・団体名)	れんらくさき 連絡先	びこう 備考
()	でんわ 電話: - - じゅうしょ 住所:	
()	でんわ 電話: - - じゅうしょ 住所:	
()	でんわ 電話: - - じゅうしょ 住所:	
()	でんわ 電話: - - じゅうしょ 住所:	



ついかじょうほう
追加情報シート 1

まん いち そな 万が一に備えて おくこと	さいがいようひなん 災害用避難グッズはどこにありますか？（ ） ひなんばしょ い 避難場所まで行ったことはありますか？ ☐ はい ☐ いいえ ちょうないかい ひなんくんれん さんか 町内会の避難訓練に参加したことはありますか？ ☐ はい ☐ いいえ
	じゅんぴ ほんにん きにゆう これから準備すること（ご本人ができることもご記入ください。）

ひなん ひつよう も もの 避難のときに必要な持ち物について	
の くすり 飲んでいる薬 なまえ ・名前（ ） 1回 ☐ 錠 ☐ 朝 ☐ 昼 ☐ 夕 ☐ 必要なとき なまえ ・名前（ ） 1回 ☐ 錠 ☐ 朝 ☐ 昼 ☐ 夕 ☐ 必要なとき なまえ ・名前（ ） 1回 ☐ 錠 ☐ 朝 ☐ 昼 ☐ 夕 ☐ 必要なとき ほか その他	

いりよう ふくしき き ようぐ 医療・福祉機器・用具など	
なまえ ・名前（ ）	ちゅういてん 注意点など（ ）
なまえ ・名前（ ）	ちゅういてん 注意点など（ ）
なまえ ・名前（ ）	ちゅういてん 注意点など（ ）
ほか その他	



追加情報シート2

自由記述欄 自由にお使いください

※ご本人もしくは、作成者とご本人が相談をして作成してください。

※それぞれの町内会で避難計画書を用意している場合があります。一緒に計画を立てる場合は、当様式にこだわらず、記入しやすいものをご使用ください。また、写真を貼ったりするなど、ご自身に合った避難計画書を作成してください。

※災害が起こると、電気や水道、ガスが止まり、福祉サービスや医療もすぐには受けられないことがあります。少なくとも3日間分の食料や必要なものを用意しておきましょう。万が一に備えて、利用している福祉事業所や医療機関に相談することも大切です。

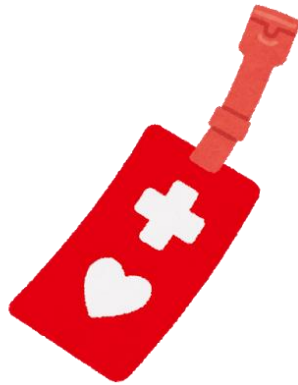
この様式は札幌市公式ホームページからダウンロードできます。

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/anshinnomati/index.html>





札幌市は「心のバリアフリー」の更なる推進を目指し、心のバリアフリーを推進するシンボルとして「心のバリアフリー推進マーク」を作成しました。心のバリアフリーとは、障がいのある方等に対する差別や偏見といった心の障壁（バリア）を取り除き、お互いを認め合い支えあうことです。



ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見からは分からなくても援助や配慮が必要な方のためのマークです。また、緊急連絡先や必要な支援内容などが記載でき、普段から身に付けておくことで、困ったとき、災害時などに、周囲の援助や配慮をお願いしやすくするヘルプカードもあります。

札幌市委託事業

誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール
(札幌市基幹相談支援センター)